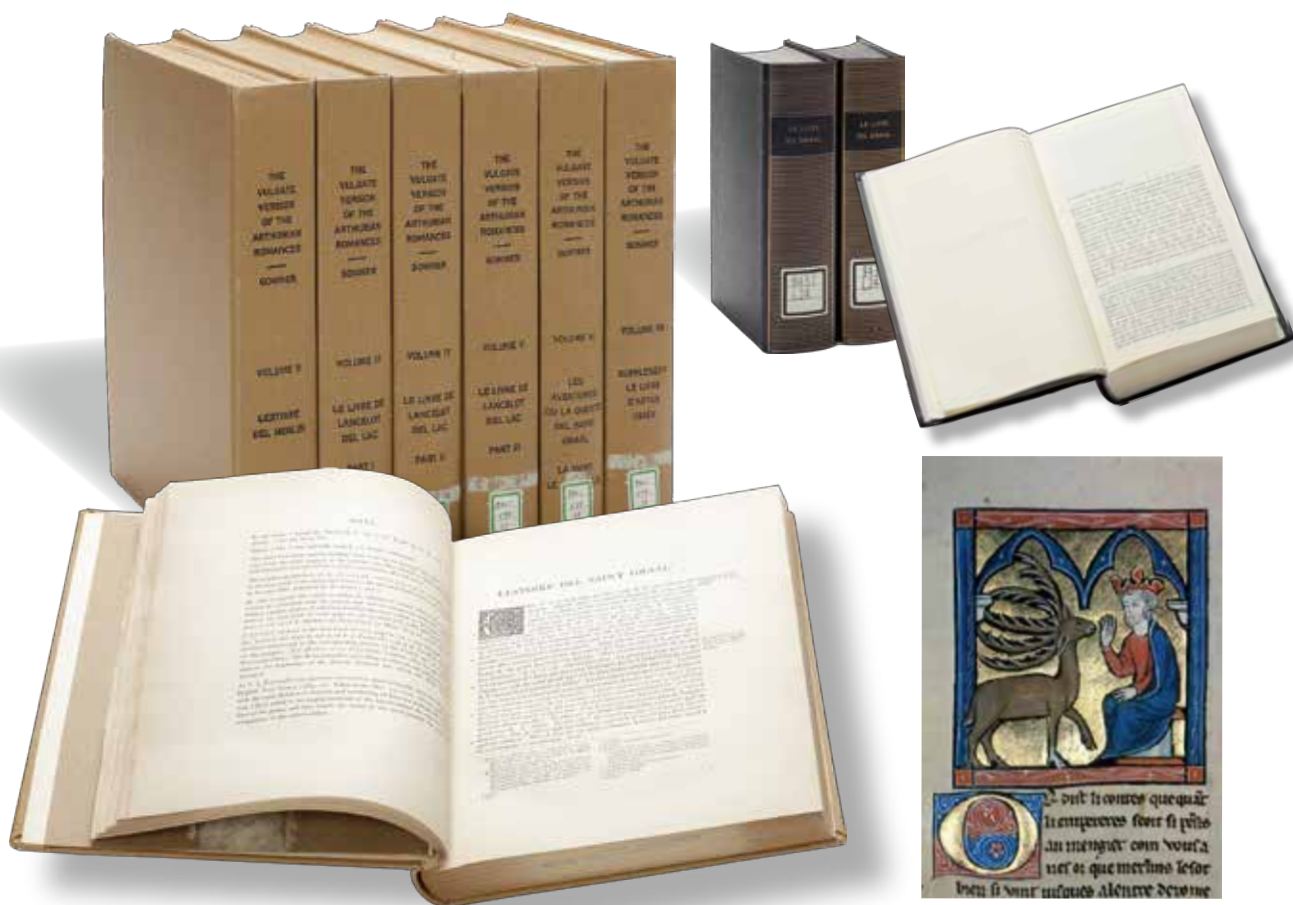


特集

中世ヨーロッパ最大のファンタジー
「アーサー王物語」を原典で読む



左はオスカー・ゾンマー編『アーサー王物語流布本版』7巻本（1908-13）[所蔵 人文研書庫 841.1/V99/58]、
右上はフィリップ・ヴァルテール編『聖杯の書』3巻本（2001-09）[所蔵 中央書庫 843.1/C55；843.1/L24]、
右手前は『聖杯の書』の底本にあたるボン大学図書館526番写本・第125葉の挿絵（雄鹿の姿でローマ皇帝の前に現れたマーリン）

CONTENTS

- 特集 中世ヨーロッパ最大のファンタジー「アーサー王物語」を原典で読む 経済学部教授 渡邊 浩司
- 図書館長再就任にあたって／三浦館長おススメの一冊
- 学修サイトを活用しよう！
- SDGs企画展示【FACT×国際機関資料室 フェアトレード展 つながる生産、つながる労働～フェアトレードの力～】を開催
- 就活に役立つ！企業・業界研究セミナー ～就活で図書館を徹底活用～
- 新着図書コーナーのご案内
- 世界9か国の新聞を展示 -ニュース読みくらべ、関連図書展示も-
- 新収資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録(2023.10～2024.3)

特集

中世ヨーロッパ最大のファンタジー 「アーサー王物語」を原典で読む

経済学部教授 渡邊 浩司

ブリタニア（ブリテン島）の英雄アーサーと円卓騎士団の活躍を描く「アーサー王物語」は、12世紀にヨーロッパのフランス語圏で誕生し、15世紀に英国のトマス・マロリーが集大成した文学ジャンルですが、現在も世界中で愛されており、映画や演劇、小説や絵本やアニメ、マンガやゲームなど、さまざまなジャンルに広がっています。「アーサー王物語」は学術的な研究の対象として、世界中の中世ヨーロッパ文学研究者たちを魅了し続けてきました。1948年に設立された「国際アーサー王学会」は、今では日本を含む11の支部を持つに至っています。ここでは「アーサー王物語」の原典にあたる主な作品を紹介します。



伝ネンニウス、瀬谷幸男訳

『ブリトン人の歴史』

（論創社 2019）

◆所蔵 開架 992/N64

アーサーは、歴史上実在したとすれば、5世紀後半から6世紀前半にかけてブリテン島へ来寇したサクソン軍を迎撃した、ブリトン軍の「戦闘隊長」だと考えられています。この戦いは、ウェールズ出身の学僧ネンニウスが9世紀に中世ラテン語でまとめた『ブリトン人の歴史』の第56章に出てきます。そこには、ベイドン山で繰り広げられた12回目の最終決戦の折、単騎のアーサーが960人もの敵兵を1日で倒したと記されています¹。



ジェフリー・オヴ・モンマス、瀬谷幸男訳

『ブリタニア列王史』

（南雲堂フェニックス 2007）

◆所蔵 中央書庫 992/G35

イングランド王家の権威づけのために、ウェールズ出身の聖職者ジェフリー・オヴ・モンマスが中世ラテン語で著したのが『ブリタニア列王史』（1138年頃）です。ブリタニア最初の王ブルトウスから7世紀までをカバーした12巻からなるこの年代記は、アーサーの一代記でほぼ3分の1が占められています。ジェフリーの描くアーサーは「戦闘隊長」ではなく、ヨーロッパのほぼ全域を支配下におく「王」であり、ローマ帝国の大軍を制圧しています。魔術師マーリン²の介入によるアーサー王の超自然的な受胎と誕生、ローマの貴婦人グウィネヴィアとの結婚、甥のガウェインや執事ケイを始めとした重臣たち、王の武勲を助ける名剣カリブルヌス（エクスカリバー）、甥のモードレッドによる叛逆と最終決戦、致命傷を負った王のアヴァロン島への移送など、現在知られている「アーサー王物語」の枠組みは、『ブリタニア列王史』ですでに完成していたのです。



ヴァース、原野昇訳

『アーサー王の生涯』

『フランス中世文学名作選』

（白水社 2013）所収

◆所蔵 中央書庫 958/Ma73

現存写本が215点をこえる『ブリタニア列王史』は、中世ヨーロッパの「ベストセラー」でした。『ブリュット物語』（1155年）は、プランタジネット朝のヘンリー2世



の命を受けたヴァースが、中世フランス語で翻案したものです。そしてこの作品中の「アーサー王の生涯」こそが、中世フランス語による最初の「アーサー王物語」なのです。ラテン語の原典になかった要素が追加されており、アーサー王に仕える騎士たちが平等であることを示す「円卓」は、この翻案作品に初めて登場しています。



クレティアン・ド・トロワ、神沢栄三訳

『ランスロまたは荷車の騎士』

クレティアン・ド・トロワ、天沢退二郎訳

『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』

『フランス中世文学集2』

(白水社 1991) 所収

◆所蔵 開架 958/N72



ジェフリーが「歴史化」し、ヴァースが「ロマンス化」した「アーサー王伝説」に揺るぎない名声を与えたのは、「アーサー王物語の父」と称されるクレティアン・ド・トロワ（従来の表記ではクレチアン・ド・トロワ）です。北フランスの宮廷で活躍していたクレティアンは、円卓騎士団のメンバーが主人公の物語を中世フランス語「韻文」で著しました。現存する5作品の中で、特に重要なのが『ランスロまたは荷車の騎士』（1177～81年頃）と『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』（1181～90年頃）です。クレティアンの功績は、ジェフリーとヴァースの作品で言及されなかった騎士ランスロ（ランスロット）とアーサー王妃との姦通愛や、少年ペルスヴァル（パーシヴァル）が漁夫王の館で目撃する不思議な器「グラアル」を、初めて物語の題材としたところにあります。ちなみにエリック・ロメールは、1978年に『ペルスヴァル』を映画化し、素朴な舞台装置を使って中世の物語世界を再現しています（邦題は『聖杯伝説』）。



ロベール・ド・ボロン、横山安由美訳

『聖杯由来の物語』

『フランス中世文学名作選』

(前掲書) 所収

◆所蔵 中央書庫 958/Ma73

クレティアンの『ペルスヴァル』の主人公が目撃した「グラアル」は、もともとは中世期に貴族の館で使われた広口の食器を指す普通名詞に過ぎませんでした。クレティアンがその中身を鮭のような大型の魚ではなくホスティア（聖体パン）としたため、この食器はキリスト教的に解釈されることになりました。『ペルスヴァル』が未完のまま残されたことで、複数の続編が書き継がれましたが、その中でも特に重要なのがロベール・ド・ボロン作『聖杯由来の物語』（1200年頃）です。ロベールは、新約聖書に登場するアリマタヤのヨセフが十字架にかけられたイエスを埋葬するときに脇腹から流れ出た血を受けるのに使った杯を、「グラアル」としました。



天沢退二郎訳

『聖杯の探索』

(人文書院 1994)

◆所蔵 中央書庫 953/A43

「食器」から「聖杯」へと劇的な変貌を遂げた「グラアル」は、アーサー王宮廷の円卓に出現して騎士たちの好きな飲食物を出すようになりました。中世フランス語「散文」による『聖杯の探索』（1220～25年頃）は、消えたこの聖杯を円卓騎士団のメンバーたちが探しに向かい、一連の試練を受ける経緯を描いています。この物語では、多くの騎士が旅の途中で命を落したり、失意のうちに宮廷へ帰還したりする中、ガラアド（ガラハド）、ペルスヴァル、ボオール（ボールス）の3人だけが聖杯にたどり着きます。その後ガラアドが聖杯とともにこの世を去り、アーサー王世界は一気に崩壊へ向かうのです。





天沢退二郎訳

『アーサー王の死』

『フランス中世文学集4』

(白水社 1996) 所収

◆所蔵 開架 958/N72



12世紀後半に中世フランス語「韻文」で書かれていた「アーサー王物語」は、13世紀に入って「散文」で書き改められ、分量が膨れ上がっていききました。クレティアンの『ランスロ』では誘拐されたアーサー王妃をランスロが救出する場面に焦点が当てられていましたが、「散文」で書かれた『ランスロ本伝』(1215～25年頃)では、「湖の貴婦人」に養育されるランスロの幼少年期に続き、王妃との姦通愛の始まりが描かれ、後半にはランスロが漁夫王の娘との間にもうけた至純の騎士ガラアドの挿話が追加されています。先述した『聖杯の探索』は『ランスロ本伝』の後続作品であり、最後に『アーサー王の死』(1230～35年)でアーサー王世界の崩壊が語られています。王国崩壊の発端となるのは、ランスロとアーサー王妃の不倫の再燃です。告発されたランスロが大陸の故郷へ戻ると、アーサー王は王国を甥のモルドレ(モードレッド)に任せて大陸へ進軍し、ランスロの眷属との全面戦争に突入します。その最中にモルドレが謀反を起こすと、アーサー王はブリテン島へ引き返し、モルドレ軍との壮絶な戦闘を開始します。最終的にはアーサー王がモルドレを討ち取るものの、自らも瀕死の重傷を負います。ジェフリーの『ブリタニア列王史』でアーサー王の甥であったモードレッドは、ここでは王が異父姉妹との近親相姦からもうけた息子となっており、さらに悲劇的に描かれています。



トマス・マロリー、井村君江訳

『アーサー王物語I～V』

(筑摩書房 2004～07)

◆所蔵 開架 933/Ma39



13世紀前半には、ランスロの誕生からアーサー王世界の崩壊までを描く3部作(『ランスロ本伝』、『聖杯の探索』、『アーサー王の死』)だけでなく、聖杯の前史からアーサー王の誕生までを描く『アリマタヤのヨセフ』と『マーリン』³が成立しました。この2つのシリーズをつなぎあわせたのが「流布本物語群(ウルガタ・サイクル)」という呼称で知られる膨大な散文物語群⁴です。英国のトマス・マロリーはこの物語群を主な着想源として、『アーサー王の死』(1469～70年)を中英語で執筆しました。マロリーの死後、英国初の印刷業者ウィリアム・キャクストンは、『アーサー王の死』を1485年に刊行しました。ジョン・ブアマン監督の『エクスカリバー』(1981年)は、マロリーの『アーサー王の死』をかなり忠実に再現した映画です。

*

*

*

最後に、「アーサー王物語」入門としてお勧めしたいのは、マロリーの『アーサー王の死』を軸にしてこの文学ジャンルの大枠と主な登場人物や異説を紹介した『アーサー王物語解剖図鑑』です。さらに一歩進んで「アーサー王物語」を彩る神話的なテーマやモチーフの謎に迫りたい方は、フィリップ・ヴァルテール著『アーサー王神話大事典』を紐解いてみて下さい。今回の企画展を通し、広大な「アーサー王物語」の世界を楽しんでいただければ幸いです。



◆所蔵 開架
933/Ka39



◆所蔵 参考
D930.2/W37

- 1 アーサーの12の戦いについては、フィリップ・ヴァルテール、渡邊浩司・渡邊裕美子訳『英雄の神話的諸相—ユーラシア神話試論1』(中央大学出版部、2019年)第5章を参照。
- 2 ジェフリー・オヴ・モンマスは1150年頃に、マーリン伝も著している。邦訳は、瀬谷幸男訳『マーリンの生涯』南雲堂フェニックス、2009年。
- 3 邦訳は、ロベール・ド・ボロン、横山安由美訳『魔術師マーリン』講談社学術文庫、2015年。
- 4 拙稿「13世紀における古フランス語散文「聖杯物語群」の成立」(中央大学『人文研紀要』第73号、2012年、35～59ページ)を参照。この物語群全体の刊行はこれまで2度行われており、1つはオスカー・ゾンマーが刊行した7巻本(H. O. Sommer (ed), *The Vulgate Version of the Arthurian Romances*, 7 vols., Edited from Manuscripts in the British Museum, Washington, Carnegie Institution, 1908-13)、もう1つはフィリップ・ヴァルテールが編集を担当した『聖杯の書』3巻本(Ph. Walter (éd.), *Le Livre du Graal*, 3 tomes, Paris, Gallimard, 2001-09)である。



図書館長再任にあたって

21～24年に引き続き、25年4月1日より、中央大学図書館長に再任されました三浦です。

図書館はいま「キャンパスライフのハブ（中心）をめざす」というコンセプトの下、学生皆さんの知のニーズ（学術情報検索、自習、グループ学習）に対応すると共に、ソファもWi-Fiもありリラックスできるリアル&デジタルの知的空間を創ることによって、誰もが立ち寄りたくなるハブを目指しています。

ただここにあと一つ、最後のピースが必要です。

それは皆さん、学生さん自身の参加です。私が専門のマーケティングでも90年代後半から消費者参加型製品開発が始まり、近年ではカルビー「あつまれ!とびだせ!じゃがり校」というネット校（3年制・各学年1000人）では、じゃがりこの新味の新製品を続々と発売しました。カルビーは作り手のプロですが、消費者は食べ手のプロなので、もっとこんな味が欲しい!といくらでも言えます。図書館も同じです。私たち図書館は作り手のプロですが、皆さんは読み手のプロ、使い手のプロです。もっとこうしたら図書館よくなるよ!、こうしたら毎日行きたくなるよ!、という意見を大募集しています。

院生を含めた学生さん、教職員の皆さんと新たな図書館を作り上げていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



◆図書館長 三浦 俊彦（商学部教授）

三浦館長 おススメの一冊

推薦図書

『アフターデジタル
—オフラインのない
時代に生き残る—』

藤井保文、尾原和啓著
日経BP社 2019

所蔵 開架 336.1/F57
ITL 336.17/A18



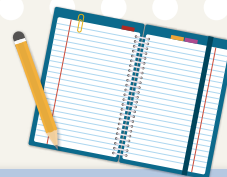
近年のデジタル化の中、生成AIのChatGPTは普通のものになり、日本もデジタル化していると思う人も多いでしょうが、実は遅れていることを教えてくれたのが『アフターデジタル』です。

アフターデジタルとは、デジタルが完全に浸透した中国などで、日本は依然としてビフォーデジタルです。例えば、中国の自動車オンライン媒体ビットオートは、顧客の免許取得→車購入→使用→売却→購入…というカーライフサイクルをデータで明らかにするために、免許、保険、駐車場、洗車、ドライブ歴の記録アプリまでのサービスに投資・提携をして、カーライフのエコシステムを作り、高頻度低価格で情報を提供し、顧客満足を高めています。日本の何周も先に行っています。

スイスの国際経営開発研究所（IMD）の世界デジタル競争力ランキング2024で日本は31位（67か国中）という数字と軌を一にします。皆さんが日本をイノベートすることを期待しています。

図書館をもっと身近に! 学修・研究を効率的に!

学修サイトを活用しよう!



分野別・目的別 学修におすすめのデータベース情報



図書館では、自宅など学外から利用できる電子ブック、辞書、新聞などを多数用意していますが、「どのデータベースを使えばいいかわからない…」という方もいると思います。このサイトでは、分野別・目的別におすすめのデータベースを紹介しています。

分野別では、法情報、企業・業界情報、海外企業情報、国際機関情報のさがし方についてまとめたページ（パスファインダー）を紹介しています。

目的別では、日本語の電子ブックを読みたい、言葉の意味を調べたいといった、用途に応じたおすすめデータベースを紹介しています。

課題やレポートのほか、就職活動やインターンシップの準備、日々の情報収集や読書など、幅広く役立ててください。

<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/library-studyathome>



データベース 図書館・DB利用入門 自習サイト



「授業でレポート課題が出た! 論文・書籍、先行研究を調べないと……。Google検索で見つけたブログ記事をそのまま使っているのかな? よくわからないな。」

中央大学図書館では、そんなお悩みの方に信頼性の高い情報を探す方法を動画で学ぶことができる特設サイトをご用意しています。

一通り学修した後は、manabaコースで問題演習を解き、自分の理解度を確認することもできます。

動画はいつでも見直せます。困った時のマニュアルとしても活用してください。

<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/library-ws-fy/>





SDGs企画展示

【FACT×国際機関資料室 フェアトレード展 つながる生産、つながる労働～フェアトレードの力～】を開催

2024年12月10日(火)から2025年1月16日(木)まで、中央図書館では、国際機関資料室がFACT(中央大学フェアトレード委員会)と協働で、『フェアトレード展 つながる生産、つながる労働～フェアトレードの力～』を開催しました。本展示は、生産者や労働者が直面する課題や、フェアトレードの意義とその影響について広く知ってもらうことを目的としています。

展示では、FACTが選定した図書のほか、サッカーボール、コーヒー、アイシャドウ、民芸品といったフェアトレード商品を展示しました。特に化粧品やサッカーボールは、来場者から大きな関心を集めました。また、ホワイトボードを活用して来場者と意見交換を行い、生産者の声を伝えるコーナーも設置しました。

見学者からは、「フェアトレードの重要性を理解できた」、「商品の選び方を見直したい」といった意見が寄せられました。本展示は、生産者や労働者への理解を深め、持続可能な社会について考える貴重な機会となりました。



展示準備をするFACTの学生たち

就

活に役立つ! 企業・業界研究セミナー ～就活で図書館を徹底活用～

中央図書館はキャリアセンターと連携して就活を応援する企業・業界研究セミナーを開催しています。

セミナーの参加者からは「満足度の高い内容」と評価されており、専門の講師によるデータベース活用方法の解説に加え、資料を配付してデータベースの利用をサポートしています。

直近の開催実績



- 2024年10月 8日(火)** 『四季報』『業界地図』を読み解く
～東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー活用術～
- 10月 9日(水)** 日経テレコンではじめる企業・業界研究
- 10月18日(金)** 有報(ユーホー)で企業を徹底分析!～eol活用術～
- 11月29日(金)** 日経新聞を効率的にめくる!目から飛び込む企業・業界情報



新着図書コーナーのご案内



中央図書館4階カウンター近くにあった新着図書コーナーを入館ゲートに近い2階カウンター前に移動させました。

大階段を上らずに新着図書を手に取って閲覧できるようになったのはもちろん、そのまま2階カウンターや自動貸出機で館外貸出の手続きをすることもできます。新着図書コーナーは毎週土曜日夜に図書の入れ替えを行っています。通うのが楽しくなる図書館づくりを目指して、取り組みを続けていきます。

世界9か国の新聞を展示

—— ニュース読みくらべ、関連図書展示も ——

中央図書館では「秋の新聞週間」にあわせ、世界中の新聞を展示する企画「the World of World Newspapers」を2階特設コーナーで催しました。(会期：2024年10月21日～12月24日)

「紙の新聞」を手にする機会が激減した昨今ですが、新聞は現在でも国民の知る権利を担保する重要なマスメディアの一つであり、私たちにとって一定の信頼を置ける情報源であることに変わりありません。

そこで図書館では、日ごろ収



【写真1】多摩キャンパス 中央図書館2階 企画展特設コーナー入口

集している約100点の新聞の中から9か国35紙を選んで実物を展示し、各国の新聞事情を解説しながら、その情報メディアとしての発展やSNS時代における変革の取組みを紹介することになりました(写真1参照)。

海外の新聞については、イギリス、ドイツから北朝鮮に至るまで欧米・アジア8か国24紙の原紙を展示しました。また、大きなニュースが発生した日付のものを図書館の学生スタッフと共にセレクトし、各紙の報道姿勢とあわせて紹介するキャプションも一緒に作成して展示しました。例えばイギリスのThe Times紙は、エリザベス2世崩御の際、生前の女王の姿から葬儀の様子までの写真を1週間にわたって一面全面に掲載するという徹底ぶり、同紙の報道姿勢を窺い知ることができます(写真2参照)。



【写真2】海外新聞の展示例(エリザベス2世崩御を伝えるイギリス・The Times紙と解説キャプション「タイム」等)

国内の新聞については、いわゆる「五大紙」にブロック紙などを加えた11紙の同一日付・紙面を並べて展示する試みを行いました。これは、2024年の大きなニュースとして、衆院選告示(10月16日付)、衆院選開票(10月28日付)、韓国戒厳令発出(12月4日～5日付)のそれぞれのタイミングで新聞を入れ替えながら、最新のニュースに対する全国紙や地方紙の報じ方が比較できるようにしたものです(写真3参照)。

展示の一角では、同規模他大学に比しても充実した契約数を誇る新聞データベースについても紹介しました。速報性、検索性、アクセシビリティなどの面で大きな優位性を持つ電子版に対して、紙媒体にも、一覧性の良さ(新聞社が意図する)重要度の読み取りやすさ、興味の無かったものを含め多様な情報に触れる機会が多いなどの特長があります。「紙面展示と比較することで来場者には、その違いを意識していただく」という意図での展示でした。

アンケートでは約9割の来場者が「とてもおもしろかった」と回答し、「各国新聞事情の概説を読んでからそれぞれの新聞に目を通すとそれまででない発見があった」「ネット記事として読むよりも、このように紙で読んだ方が頭に定着する感じがする」といった感想が寄せられています(いずれも概略)。アンケート記入の記念品として保管期限を過ぎた外国新聞を持ち帰っていただく企画も、珍しい



【写真3】国内新聞の展示例(衆院選開票を伝えるブロック紙等)

ロシア紙イズヴェスチヤが一時在庫切れとなるなど好評を博しました。

また、日本新聞協会から取材を受け、同協会機関紙『新聞協会報』に紹介記事が掲載されるという反響もありました。

当展示は2025年1月20日～3月15日まで茗荷谷キャンパスの法学部図書館でも巡回展示を実施いたしました。2025年秋には中央図書館で再度開催する予定です。新聞以外のテーマを含め、今後の図書館の企画展示にぜひご期待ください。

新収資料紹介

教職員著作目録 2023.10-2024.3 配架図書一覧 ()は所属学部等

著者名		書名	出版社	出版年月	所蔵館	書誌番号
關 連科 飯塚 啓(文)	著 訳	中国のはなし：田舎町で聞いたこと	河出書房新社	2023.11	中央館/中言	BB01696445
池田 和臣(名) ほか	編	旺文社国語辞典 第12版	旺文社	2023.10	中央館/法学部	BB01694165
石橋 悠人(文) ほか	編	情報・通信・メディアの歴史を考える (いまを知る、現代を考える山)川歴史講座)	山川出版社	2023.10	中央館/西史/法学部/ iTL	BB01694706
井田 良(法務)	著	講義刑法学-名論 第3版	有斐閣	2023.12	中央館/法学部/LS	BB01698203
石村 修、植野 妙実子(名) ほか 佐藤 信行(法務) ほか	編著 執筆	世界と日本のCOVID-19対応：立憲主義の視点から考える	敬文堂	2023.7	中央館/法学部	BB01693590
内海 愛子、宇田川 幸大(商)	編	日本人捕虜関係資料 (十五年戦争極秘資料集 補巻54)	不二出版	2023.12	中央館	BB01698390
宇野 茂彦(名) ほか	編	旺文社漢字典 第4版	旺文社	2023.10	中央館/法学部	BB01694167
栄 剣 阿古 智子、及川 淳子(文) ほか	著 訳	現代中国の精神史的考察：繁栄のなかの危機	白水社	2023.9	中央館/中言/法学部	BB01691026
大田 美和(文)	著	とどまれ	北冬舎	2023.11	中央館	BB01697379
岡崎 裕史(国情)	監修	ChatGPT&生成AI (倍速講義)	日経BP	2023.10	中央館/法学部/iTL	BB01692687
岡崎 裕史(国情)	監修	デジタルの未来図鑑 = Future Pictorial Book of Digital	G.B.	2023.6	iTL	BB01693519
岡崎 裕史(国情)	監修	高校情報をひとつひとつわかりやすく。	Gakken	2023.8	iTL	BB01693513
岡崎 裕史(国情)	監修	生活が楽になる!スマホ基本のキ (TJ mock NHK趣味どきっ!MOOK)	宝島社	2023.10	iTL	BB01693518
岡崎 裕史(国情)	著	ネットワークスペシャリスト合格教本 令和06年	技術評論社	2023.10	iTL	BB01693524
岡崎 裕史(国情)	著	情報セキュリティマネジメントポケット攻略本：要点早わかり 改訂新版	技術評論社	2023.10	iTL	BB01693522
NHK出版 岡崎 裕史(国情)	編 監修	はじめてのスマホトラブル・お悩み解決ブック：100の困った!に応えます (生活実用シリーズ NHK趣味どきっ!MOOK)	NHK出版	2023.11	iTL	BB01694672
岡崎 裕史(国情)	著	情報処理安全確保支援士合格教本 令和06年<春期><秋期>	技術評論社	2023.12	iTL	BB01696585
岡崎 裕史(国情)	著	情報セキュリティマネジメント合格教本：科目A科目B 令和06年	技術評論社	2023.12	中央館/iTL	BB01696073
岡崎 裕史(国情)	著	ITパスポート合格教本 令和06年	技術評論社	2023.12	中央館/理工/iTL	BB01696339
岡崎 裕史(国情)	著	ジオン軍の闘争：U.C.0079 (角川コミックス・エース 機動戦士ガンダムジオン軍事技術の系譜)	KADOKAWA	2023.12	iTL	BB01699329
岡崎 裕史(国情)	講師	スマホまねるだけ講座：最新版：動画付きでよくわかる (扶桑社ムック NHK趣味どきっ!)	扶桑社	2024.1	iTL	BB01699335
岡崎 裕史(国情)	著	うかる!基本情報技術者 2024年版科目B-セキュリティ編	日経BP日本経済新聞出版	2024.1	iTL	BB01699331
大滝 みや子、岡崎 裕史(国情)	共著	応用情報技術者合格教本 令和06年<春期><秋期>	技術評論社	2023.12	iTL	BB01699370
Olga Czyzak(文)	著	Gesichtskritische Episoden in Gruppenarbeitsphasen : Interaktionen unter Lernenden in einem aufgaben- und inhaltsbasierten DaF-Unterricht	Narr Francke Attempto	2023	独文	BB01693276
工藤 達朗(法務)、小山 剛、武市 周作(法)	編	憲法裁判の制度と実践	尚学社	2023.7	中央館/総政/法学部/ LS	BB01690041
河谷 清文(法務) 西村 暢史(法)、中川 寛子	編著 著	経済法 = Economic law (有斐閣ストゥディア)	有斐閣	2023.9	中央館/法学部/LS/iTL	BB01691353
小杉 のぶ子(経)	著	経済学部生のための数学：高校数学から微積分まで	コロナ社	2023.10	中央館	BB01693361
高村 学人、古積 健三郎(法務) ほか	編著	入会林野と所有者不明土地問題：両者の峻別と現代の入会権論	岩波書店	2023.10	法学部/LS	BB01694535
古積 健三郎(法務)	著	法人格のない団体の権利主体性	弘文堂	2023.12	法学部/LS/iTL	BB01696564
ダニエル・ジョンロブ、ウッドロウ・ハーツォグ 小向 太郎(国情)	著 監訳	データセキュリティ法の迷走：情報漏洩はなぜなくなるしないのか? (基礎法学翻訳叢書 第2巻)	勁草書房	2023.11	法学部/iTL	BB01697476
小森谷 徳純(経)、章 沙娟(経)	編	コロナ禍・ウクライナ紛争と世界経済の変容 (中央大学経済研究所研究叢書)	中央大学出版部	2023.10	中央館/iTL	BB01693920
佐伯 仁志(法務) ほか	編集代表	有斐閣判例六法professional = Yuhikaku's statutes and precedents for professionals 令和6年版	有斐閣	2023.11	LS/iTL	BB01695317
佐伯 仁志(法務)、大澤 裕 ほか 井田 良(法務)、只木 誠(法) ほか	編 執	山口厚先生古稀祝賀論文集	有斐閣	2023.11	法学部/LS	BB01696870
酒井 克彦(法務)	著	クローズアップ課税要件事実論：要件事実と主張・立証責任を理解する 第6版	財經詳報社	2023.8	中央館/LS	BB01691927
庄司 克宏(総政)	著	はじめてのEU法 第2版	有斐閣	2023.9	中央館/法学部/LS/iTL	BB01692461
トーマス・J・ミッチェリ 高橋 直哉(法務)	著 訳	刑罰のパラドックス：刑事司法の経済学について考える (日本比較法研究所翻訳叢書 88)	中央大学出版部	2023.12	中央館/法学部/LS	BB01696566
田中 洋(名)	編	デジタル時代のブランド戦略 = Brand strategy in the digital age	有斐閣	2023.11	中央館/iTL	BB01695913
谷口 洋志(名)	編著	中国政治経済の構造的転換 3 (中央大学経済研究所研究叢書81)	中央大学出版部	2023.8	中央館	BB01691625
土橋 茂樹(名)	著	教父哲学で読み解くキリスト教：キリスト教の生い立ちをめぐる3つの問い	教文館	2023.8	中央館/哲学/法学部	BB01691470
DALE, Joshua Paul(文)	著	Irresistible : how cuteness wired our brains and conquered the world	Profile Books	2023	中央館/英文	BB01694832
西川 広平(文)	著	中近世の資源と災害	吉川弘文館	2023.11	中央館/日史	BB01694093
野口 薫(名)	編著	「あそびをせんとやうまれけむ」：ヴェルナー・ジャウマン遺稿集	風詠社	2023.10	中央館	BB01699294
日高 克平(商)、木村 有里(国経) ほか	編著	SDGs時代を拓くグローバルビジネスの挑戦：「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて (中央大学企業研究所研究叢書 43)	中央大学出版部	2023.9	中央館/BS	BB01691624
平山 令二(名)	著	ウィーン、わが夢の街：フロイトと熊橋 = Wien,du Stadt meiner Träume	講出版	2023.9	中央館	BB01696158
広岡 守穂(名)	著	戯れ歌愛と異郷：広岡守穂詩集	土曜美術社出版販売	2023.8	中央館	BB01691895
保坂 俊司(国情)	著	仏教興亡の秘密：仏教を導いた語りえぬものについて	ぶねうま舎	2023.8	中央館	BB01690714
丸山 秀平(名)	著	ドイツ有限責任事業会社 (UG) 続 (日本比較法研究所研究叢書 130)	中央大学出版部	2023.10	中央館/法学部/LS	BB01692883
森 光(法)、中田 達也	編	海の法文化と陸の法文化 (法文化(歴史・比較・情報)叢書 20)	国際書院	2024.1	中央館/法学部/LS	BB01700342
山内 惟介(名)	著	気候危機とドイツ国際私法 (日本比較法研究所研究叢書 132)	中央大学出版部	2023.12	中央館/法学部/LS	BB01696565
山田 昌弘(文) 郭 佩	著 訳	低流動社会：后疫情时代日本の新格差	中国科学技术出版社	2023.5	社会	BB01692562
山田 昌弘(文) 錢 爰琴	著 译	低生育陷阱：日本少子化対策的失敗	译林出版社	2023.9	社会	BB01697946
山田 昌弘(文)	編著	「今どきの若者」のリアル (PHP新書 1374)	PHP研究所	2023.11	中央館/社会/法学部	BB01695440
山田 昌弘(文) 韩 涛译	著 [訳]	不婚社会：日本婚姻的未来走向 (东瀛世相)	生活・讀書・新知三联书店	2024.1	社会	BB01700620
山田 昌弘(文)	著	バラサイト離婚社会 (朝日新書946)	朝日新聞出版	2024.2	中央館/社会/法学部	BB01700714
若林 茂則(文)	編	英語の教室で何ができるか	開拓社	2023.9	中央館/英文	BB01692265

